

【飛島建設とオリコンサル 中津川で小水力発電 地域に根ざした事業展開】

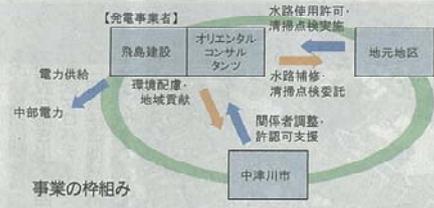
飛島建設とオリコンサル

# 中津川で小水力発電

## 地域に根ざした事業展開

飛島建設とオリコンサルは、共同発電事業者として、岐阜県中津川市で小水力発電パイロット事業を実施する。既存の農業用水路を発電用導水路に活用し、その清掃や点検など維持管理を地元へ委託するなど地域に根ざした事業を展開。こと12月に運転開始後、20年間を事業期間とし、定格出力は水車136・47で、年間発電電力量は一般家庭300世帯分に相当する95万3000kWh。発電した電力は固定価格買取制度に基づき、全量を中部電力に売電する。

岐阜県は未開発エネルギー量が全国1位と水力発電の潜在的な実現可能性が高く、特に中津川市付近は起伏の多い中山間地形のため、小水力発電に適した水量・未利用落差が多いといわれている。飛島建設とオリコンサルは、同市内の落合平石地区で大正時代につくられた歴史のある農業用水路の未利用落差（有効落差64m）に着目し、今回の事業を計画した。計画段階から地域との相互協力と中津川市の支援の下に事業を進めており、企業連携、地域連携、官民連携の3つを軸に再生可能エネルギー事業の新たな事例となることを目指す。



既存の農業用水路を活用することで建設コストを抑えるとともに、経年劣化が進んだ水路や取水設備を改修・更新し、将来の農業用水路の維持管理費用も軽減。農業用水路は長さ918mで、昨年11月に工事を開始し、水路の一部の入れ替えを完了させた。へ、落合平石地区、水圧管路、発電所建屋、余水路などは6月に着手し、11月に水車・発電機の導入、据え付けを行う。総工費は2億5000万円



既存の農業用水路を活用

は中津川市が支援している。今回の事業を通じて、地域との密接なパートナーシップを構築するだけでなく、事業実施地域そのものの観光資源化、マレットゴルフなど地域住民の健康増進のための環境整備、森林の手入れによる災害・獣害対策の促進など地域活性化にもつなげていきたいと考えた。